

二〇二五年度 札幌大谷大学社会学部地域社会学科

一般選抜Ⅰ期

国語

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は9ページあります。
- 3 試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

Ⅰ 次の文章は三宅香帆「仕事がアイデンティティになる時代——2000年代」(『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』集英社新書、二〇二四年)の一部である。本文を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合で原文の一部を省略改変した)。

自己実現、という言葉がある。

その言葉の意味を想像してみてほしい。すると、なぜか「仕事で自分の人生を満足させている様子」を思い浮かべてしまうのではないだろうか。趣味で自己実現してもいい。子育てで自己実現してもいい。いいはずなのに、現代の自己実現という言葉には、どこか「仕事で」というニュアンスがつきまとう。それはなぜか? 2000年代以降、日本社会は「仕事で自己実現すること」を称賛してきたからである。

思えば本書の序章で紹介した(注1)『花束みたいな恋をした』も、「自己実現しきれない若者」の物語だった。やりたい仕事であつたはずの、イラストレーターで食べていけない。好きなことを仕事に、できない。でもそれは生活のためには仕方がないと思っている。

麦「でもさ、それは生活するためのことだからね。全然大変じゃないよ。(苦笑しながら)好きなこと活かせるとか、そういうのは人生舐めてるって考えちゃう」

(坂元裕二『花束みたいな恋をした』)

好きなことを活かせる仕事——麦の言うとおり、それは夢物語で、^aモラトリアムの時期だけに描くことのできる夢なのかもしれない。しかし問題は、それが夢物語であること、ではない。むしろ好きなことを仕事にする必要があるのか? 趣味で好きなことをすれば、充分それも自己実現になるではないか? そのような考え方が、麦にとってすっぱり抜け落ちていることこそが問題なのだ。

自己実現が果たせる仕事に就けることが最高の生き方だ。好きなことを仕事にするのが理想的な生き方だ。——^Aそのような考え方はそもそもどこから来たのか?

^B答えは、2000年代のベストセラーにあつた。

2002年(平成14年)に「生きる力」を重視する教育——通称・ゆとり教育が開始された。ゆとり教育の開始と時をほぼ同じくして、ある1冊の本がベストセラーとなる。

村上龍『13歳のハローワーク』。子どもが好きなことに応じて、その「好き」を活かせるような職業が紹介されているという、職業事典のような本である。たとえば「文章が好き」という項目を開くと、「作家」という職業の説明が載っている。「作家」の説明には「最後の職業」とある。さまざま

な体験や職業を経てからなくても遅くはない、犯罪者でもなれる職業なんだから焦ってなろうとする必要はない、という意である。20代で①センレツなデビューをかました村上龍にだけは言われたくねえ、と思う。ちなみに同書が刊行された2003年（平成15年）、綿矢りさ（当時19歳）と金原ひとみ（当時20歳）が史上最年少で芥川賞作家となっていた。

さて『13歳のハローワーク』はベストセラーとなり、2000年代初頭のベストセラー史に燦然と輝いている。そんな同書の「はじめに」には、このような一文がある。

子どもが、好きな学問やスポーツや技術や職業などをできるだけ早い時期に選ぶことができれば、その子どもにはアドバンテージ（有利性）が生まれます。

「好き」な学問／スポーツ／技術／職業があることは、子どもの将来にとってアドバンテージになる。たしかにこの一文どおり、『13歳のハローワーク』は、「好き」と「将来の仕事」を結びつけるという**コンセプト**だ。

このような思想は、2000年代におこなわれたゆとり教育にも反映されている。岩木秀夫『ゆとり教育から個性浪費社会へ』は、^{（注2）}サッチャー政権や^{（注3）}レーガン政権が採用した新自由主義改革にならおうとした結果、規制②緩和の理念から「ゆとり改革」を採用してしまったという流れを解説する。つまり1990年代から徐々に社会へ浸透していた新自由主義的な思想が、教育現場にも流れ込み、「個性を重視せよ」「個々人の発信力を伸ばそう」という思想に基づいた教育がなされるようになった。

臨教審当時の国策であった規制緩和・内需拡大は、いまなお色こく経済政策や教育政策の基本に残りつづけており、あらたな欲望を発見し、追究する生き方（自己実現の追求と呼ばれている）が、政策の根底におかれているといえます。その意味では、「働き方・生き方」よりは、「消費する生き方」にピントが合わされているといったほうが正確です。

『ゆとり教育から個性浪費社会へ』

岩木はこのような社会について「グローバル・メリットクラシー（国際能力主義）社会と、イデオシンクラシー（個性消費）社会という、二兎を追う社会」と的確な言葉で名づけている。競争しなければならないのに、個性を活かさなければならぬ——このジレンマは、当時つくられたものだった。

また90年代後半、すでに「やりたいこと」「好きなこと」を重視するキャリア教育は取り入れられ始めていた。労働市場が崩れ始めた90年代後半か

ら、「夢」を追いかけると煽るメディアが③汨濫するようになる（荒川葉『夢追い』型進路形成の功罪―高校改革の社会学』。実際、学生が想像できる「夢」、つまり楽しそうな進路は「服飾・家政」や「文化・教養」など就職率の低い領域であることも多かった。しかしそういったリスクを伝えず、高校のキャリア教育は夢を追いかけることを推奨した。

つまり90年代後半から00年代にかけて、日本の教育は「好きなこと」「やりたいこと」に沿った選択学習、進路形成を推奨する教育がなされることになった。結果として「やりたいことが見つからない」若者や、あるいは「やりたいことが見つかっていても、リスクの高い進路を選んでしまう」若者が増えていったのだと荒川は指摘する（同前）。

このような風潮が、自分の「好き」を重視する仕事を選ぶことを良しとする『13歳のハローワーク』のベストセラー化につながったのだろう。

「好き」を活かした「仕事」。そのような④ゲンソウができたのは、1990年代から2000年代のことだった。その背景には、日本にもやってきた新自由主義改革があった。

このような状況を社会学者の永田大輔は以下のように説明する。

近年では、こうした労働者の実存が教養ではなくむしろ労働によって埋め合わされる傾向にあり、そのことが学校文化・消費文化とそれぞれかに結びつくかが問題化されるようになった。

（「序章 消費と労働の文化社会学―『やりがい搾取』以降の労働を捉える新たな視座」、永田大輔・松永伸太郎・中村香住編著『消費と労働の文化社会学―やりがい搾取以降の「批判」を考える』所収）

労働者の実存は、労働によって埋め合わされるようになってしまった。^Cこれ以前だと、本書で見たように、学歴のない人々が本を読んだりカルチャーセンターに通ったりして「教養」を高めることで自分の階級を上げようとする動きもあった。だが、新自由主義改革のもとではじまった教育で、私たちは教養ではなく「労働」によって、その自己実現を⑤ハカるべきだという思想を与えられるようになってしまった。

2001年（平成13年）の日本労働研究機構（現労働政策研究・研修機構）によるフリーターへのヒアリングでは、そのうちの4割が「やりたいこと」という言葉で自分がフリーターになった経緯を説明した（速水健朗『自分探しが止まらない』）。この結果からも、当時の就職活動や高校教育において、いかに仕事における「やりたいこと」や「自分らしさ」の重要性が強く刷り込まれていたかが分かるだろう。それはある意味、日本の「夢追い」キャリア教育がうまくいった結果でもあった。当時ニートと呼ばれる若者たちが問題になっていたが、ニートをつくり出したのは、実は「やりたいことを仕事にすべきだ」という風潮だったのである。

80年代のバブル経済時、田中康夫『なんとなく、クリスタル』（河出書房新社、1981年）や上野千鶴子『〈私〉探しゲーム―欲望私社会論』（筑摩書房、1987年）を参照すれば、消費による自分らしさの表現が可能だったことが分かる。しかし90年代のバブル崩壊を経て、2000年代の新自由主義社会化による労働環境の変化の影響を受けた若者たちは、もはや消費で自己表現することは難しくなった。その結果、D労働そのものが「自分探し」の舞台になったのである。『13歳のハローワーク』はその文脈をうまく汲み取ったベストセラーだった。

（注1）『花束みたいな恋をした』——日本の映画作品。二〇二二年公開。監督は土井裕泰、脚本は坂元裕二が担当した。大学時代に文化的趣味（読書や映画鑑賞など）をともに楽しんでいたあるカップルの関係性が、五年の歳月を経て変わっていくさまを描いた。

（注2）サッチャー——マーガレット・サッチャー（一九二五年～二〇一三年）。イギリスの政治家。

（注3）レーガン——ロナルド・レーガン（一九一一年～二〇〇四年）。アメリカ合衆国の政治家、映画俳優。

問一 傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して記しなさい。

問二 傍線部 a 「モラトリアム」、傍線部 b 「コンセプト」の意味を本文に即して記しなさい。

問三 傍線部 A 「そのような考え方」とあるが、具体的にどのような考え方を指しているか。次の中から適当なものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 好きなことではなく生活をするために仕事を選ぶべきだという考え方。
- イ 好きなことを活かした仕事をするのが理想だという考え方。
- ウ 好きなことを続けながら生活をするための仕事に就くことは可能であるという考え方。
- エ やりたいことではなく得意なことを活かすことで自己実現ができるという考え方。
- オ やりたい仕事を通じて自己実現していくことに価値があるという考え方。

問四 傍線部 B 「答え」の具体的な内容とはどのようなものか。「新自由主義」「教育」という言葉を必ず用いて説明しなさい。

問五 傍線部 C 「これ以前だと、本書で見たように、学歴のない人々が本を読んだりカルチャーセンターに通ったりして「教養」を高めることで自分の階級を上げようとする動きもあった」とあるが、「労働」と自己実現が結びつく以前の人々について、他にどのようなことをしていたと書かれているか。それを端的に説明した11字の箇所を本文中から抜き出して記しなさい。

問六 傍線部 D 「労働そのものが「自分探し」の舞台になったのである」とあるが、この見解に対するあなたの考えを自由に記しなさい。

Ⅱ 次の文章は風間孝「ホモフォビアと異性愛主義」（風間孝・河口和也『同性愛と異性愛』岩波新書、二〇一〇年）の一部である。本文を読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合で原文の一部を省略改変した）。

十数年前に、ある高校で起こった出来事について、そこに勤務していた養護教諭がエッセイを記している。その出来事とは、このようなものだ。

一人の男子生徒が保健室をしばしば訪れるようになった。養護教諭は、その生徒が何か悩み事を抱えていると考え、「彼氏のいる女の子でも好きになったのだろうか」などと想像をめぐらしていた。なかなか話を切り出せない生徒に対して、自分の気持ちを手紙に書くことを勧めると、ヒントをもらえたと思ったのか、その後保健室にやってくるようになった。しばらくして、養護教諭に職員室に来るようにとの連絡があった。その生徒が授業中にごそごそしていたので、担任が注意したところ、紙きれを隠そうとした。取り上げてなかを見たところ、同じクラスの男子生徒へのラブレターだったという。そのラブレターをめぐって緊急会議が開かれ、この件について養護教諭からも意見を求めようということになったのだという。

緊急会議では、「ラブレターの宛名の生徒が襲われたら困るから退学させるべきだ」「治療を受けさせるべきだ」といった意見が他の教員から次々に表明されていた。養護教諭は、同性愛は病気ではないこと、人のラブレターを勝手に読んで退学はない、と主張しようとしたが、正論を述べても多数の教員を一人でセツトすることは難しく、またラブレターを書いた生徒にとばかりが行く可能性を考え、思春期には一時的に同性に惹かれることがあり、同性愛と決まったわけではない、と発言した。この発言を聞くと、職員室の雰囲気は急に軽くなり、生徒に対してラブレターを渡さないように指導することで問題がおさまった。

養護教諭は、生徒を守るために同性に一時的に惹かれる可能性を指摘したのだが、【X】のために述べておけば、それが一時的なものかどうかは誰にもわからない。これからもずっと同性に惹かれ続ける可能性もあるだろう。仮に、一時的なものだと生徒に述べたとしたら、なぜ自分はいつもでも同性に惹かれ続けるのかと、かえって悩みを深くすることになるかもしれない。

同性に恋愛感情をもつ生徒が学校にいた場合に、学校側が退学や治療という選択をとることが実際どれくらいおこなわれているのかを示すデータはない。だが、少なくともA教育現場における同性愛の扱いが肯定的とはいえない現実があるのも確かだ。

（注）二〇〇八年におこなわれたゲイ、バイセクシュアル男性五五二五人を対象とする、日高庸晴らのインターネット調査によれば、学校で同性愛について、「一切習っていない」七六・一%、「異常なものと教わった」四・一%、「否定的な情報を教わった」一〇・二%、「肯定的な情報を教わった」六・五%、という結果であった（略）。「一切習っていない」「異常なものと教わった」「否定的な情報を教わった」を合計すると、九割を超える。「一切習っていない」を九割のなかに含めたのは、それが中立的な立場の表明とみなせないからである。同性愛を一切取り扱わないということとは、異性愛のみが自然であり、同性愛は普通ではないという社会に流布している価値観をただすことなく、結果的に支えることになるだろう。教育現場がこうした認識を強化してしまっている現状が、このデータから浮かび上がる。このことからすれば、先の高校のような対応をとるケースを特殊であるとは言

い切れないのが現実ではないだろうか。

こうした環境のなかで同性に惹かれる生徒たち、また「男らしくない」「女らしくない」と周囲からみなされた生徒たちが、「ホモ」「オカマ」「レズ」「おとこおんな」といった言葉を投げつけられ、いじめの対象となることが繰り返されている。実際に、日高らの調査によれば、年代にもよるが、ゲイ、バイセクシュアル男性の半数から三分の二が、「ホモ」「オカマ」「おとこおんな」などの言葉によるいじめ被害を受けたと答えている。また、このいじめは、生徒間のものとも限らない。教員が^②率先して、同性どうしで親しくしている生徒を笑いの対象にし「女らしく」「男らしく」ふるまうように生徒を注意することもまた、少なくないのではないだろうか。

^B保健体育などでおこなわれる性教育の授業でも、思春期には異性を好きになるのが自然な感情であるという発言がなされることもある。同性愛者を貶めようとして発せられているわけではないのだろうが、こうした発言をする教員の頭のなかには、同性に惹かれて悩みを抱えている生徒が教室のなかにいるという意識はなかったのではないか。

学校教育の内容が異性愛を前提とし、異性愛以外の性のあり方について触れられないとき、同性愛・両性愛指向の生徒たちは、自らの性的指向をどのように理解したらよいのかわからず、しばしば困惑することになる。先に紹介した事例でも、生徒は、クラスメートに対する自らの感情に対して、自分は女装したいわけではないのに、どうして男性を好きになったのかと、困惑していたという。教員たちの多くは、このような生徒を^③エンジョするどころか、内側に抱えもつ否定的な感情を助長してしまいがちである。その結果、このような生徒は自らを異常視し、いじめられるのは自分に問題があるからととらえてしまうであろう。

同性を好きになったことをクラスメートに知られて興味本位の噂の対象にされ、さらには好きになった相手からも「気持ち悪い」などと言われる。教員もこうした状況に積極的に介入することなく、ときにその生徒の感情を笑いのものにしさえする。こうした現実が、同性愛・両性愛の生徒・学生を取り巻いているのである。

日高らは別の調査で、一五～二四歳の男女約二〇〇〇人を対象に、性的指向と自殺未遂の関連を調べている（朝日新聞、二〇〇八年一〇月二九日大阪版）。異性愛者と、同性愛者・両性愛者・その他と答えた非異性愛者の自殺未遂の割合を男女別に比較すると、男性では異性愛者が四・七%であったのに対し、非異性愛者は二四・五%、女性では異性愛者一・二%であったのに対し、非異性愛者は二〇・七%であった。男性で五倍強、女性で約二倍、非異性愛者のほうが自殺を試みているという結果が示されている。

性的指向と自殺との関連性は、^④オウベイでも指摘されてきたが、日本でも同様の結果が示されていることがわかる。^C同性愛・両性愛の若者にとつて、快適で楽しい学校生活を送ることは容易なことではないのである。

このような現実がある一方で、近年では生徒・学生たちがインターネットをつうじて同性愛や両性愛の情報を手に入れる機会も増えている。学校の

なかでは見つけにくい同性愛者や両性愛者の友人、仲間と出会ったという者も少なくないだろう。インターネットによって変化の^⑥兆しが見られるようになったのは、喜ぶべきことである。

しかし、インターネットによる出会いをつうじて、^(注2) HIVを含む性感染症など健康上のリスクにさらされ、犯罪に巻き込まれることもある。さまざまな背景をもつ人と出会う可能性が高くなっている状況にあるからこそ、学校教育では性的指向に対する基本的なとらえ方や、性感染症や望まない妊娠を防ぐための知識が十分に提供される必要がある。性教育のなかでこれらの^(注3)トピックについて取り上げる必要性はこれまで以上に増してきている。

(注1) 日高庸晴らのインターネット調査——厚生労働省『インターネット利用層への行動科学的HIV予防介入とモニタリングに関する研究』の一環で、日高庸晴、本間隆之、木村博和が実施した「インターネットによるMSMのHIV感染予防に関する行動疫学研究」『REACH Online 2008』の1つ。

(注2) HIV——Human Immunodeficiency Virus (ヒト免疫不全ウイルス)のこと。エイズの原因となる。

(注3) トピック——話題

問一 傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して記しなさい。

問二 【X】に最適な言葉を次の中から選び、記号を記しなさい。

ア 万 イ 千 ウ 為 エ 我 オ 念 カ 仏

問三 傍線部A「教育現場における同性愛の扱いが肯定的とはいえない現実がある」とあるが、具体的にどのようなことを示しているかを説明しなさい。

問四 傍線部B「保健体育などでおこなわれる性教育の授業でも、思春期には異性を好きになるのが自然な感情であるという発言がなされることもある」とあるが、筆者はそれがどのような問題につながると考えているか。次の中から本文の内容に合致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 異性愛指向の生徒たちが、異性愛を自然なものとしてとらえる一方で、異性を好きになったときに困惑することがある。

イ 同性愛・両性愛指向の生徒たちが、同性だけでなく異性にも惹かれてしまうため、本当の気持ちがわからず困惑することがある。

ウ 同性愛・両性愛指向の生徒たちが、自らの性的指向をどのように理解したらよいのかわからず困惑することがある。

エ 異性愛指向の生徒たちが、他者の性的指向に興味を持ち、自らの性的指向についてもわからなくなり困惑することがある。

オ 人を好きになるのに相手の性は関係ないため、同性愛・両性愛・異性愛という区分自体が成立しなくなることがある。

問五 傍線部C「同性愛・両性愛の若者にとって、快適で楽しい学校生活を送ることは容易なことではないのである」とあるが、それはなぜだと考えられるか。本文の内容を踏まえて簡潔に記しなさい。

問六 傍線部D「性教育のなかでこれらのトピックについて取り上げる必要性」について、あなた自身の考えを自由に記しなさい。